

織田信長（1534－ 1582）の幼少期からお付きの武士として勤めた後、池田元助は 1583 年から 1584 年まで岐阜城の領主となった。彼は、信長の数々の戦いに参戦した熟練した武将であった。淡路島侵攻で豊臣秀吉（1537-1598）と呼応して戦っていたとき、1582 年京都で織田信長が本能寺で亡くなった。秀吉の部隊に加わり、信長を殺した明智光秀との山崎の戦い（1582）で戦い、織田氏継承問題をめぐる戦いの間、池田氏族は豊臣秀吉と次男の信雄（1558-1630）を支持した。

1583 年、池田氏が美濃の大部分を統治し、元助に岐阜城が与えられた。1584 年現在の愛知県小牧の戦いの時、豊臣軍と徳川軍の大部分はともに野陣で対戦していた。その時秀吉は徳川の基地である岡崎城が留守で容易に獲得できると気づき、池田元助は岡崎城を攻撃する派遣部隊の一部として侵攻したが、その計画は徳川によって発見された。徳川軍は今の名古屋市郊外の長久手の戦い（1584）で豊臣軍に反撃を与えた。元助は戦闘中に戦死し、岐阜城は弟の輝政に任された。